



謹賀新年

ワールドカップ第2戦北京ラウンド・マディソン決勝

シクリスムエコー No.145 2007年12月・2008年1月合併号



新年のご挨拶 (会長 岩瀬昭一) 2



2008年初頭をむかえ (フレデリック・マニエ)..... 2



2007年トラック・アジアカップ マレーシア・ラウンド..... 4

'07-'08 UCIトラック・ワールドカップ#1 シドニー..... 5

'07-'08 UCIトラック・ワールドカップ#2 北京..... 6

2007年世界室内自転車競技選手権大会..... 10

第38回全日本室内自転車競技選手権大会..... 11

第13回全日本シクロクロス選手権大会..... 12

JCF 2007年～2008年シクロクロス強化指定選手..... 12

関西シクロクロスミーティング野洲ラウンド..... 13

競技大会結果..... 15

各大会日本代表選手団..... 16

連盟の動き..... 16



この広報誌は、「競輪公益資金」の補助を受けました。

<http://keirin.jp>

<http://ringring-keirin.jp>



平成 20 年の幕開けにあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
 平素は本連盟の諸事業にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
 さて、本年 4 月に 4 年ぶりにアジア自転車競技選手権大会（トラック・ロード）が奈良県で開催されます。そして、8 月には、いよいよ 4 年に一度のオリンピック競技大会が北京で開催されます。

オリンピックにおける自転車競技のメダル獲得は、1984 年ロサンゼルス五輪で坂本勉選手が男子スプリントで初の銅メダルを、1996 年アトランタ五輪で十文字貴信選手が男子 1km タイムトライアルで 2 つ目の銅メダルを、そして 2004 年アテネ五輪では男子チームスプリントで長塚智広選手・伏見俊昭選手・井上昌己選手の日本チームが堂々の銀メダルを獲得しました。

本連盟は、北京オリンピックにおいて、またその先のロンドン五輪を見据え、メダル獲得の大きな目標に向かって、マニエ・ナショナルディレクターを中心に関係者一同が精力を傾けて臨む所存であります。どうか皆様方の倍旧のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、自転車競技の普及発展と皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

財団法人 日本自転車競技連盟 会長 岩楯 昭一

2008 年初頭をむかえ

JCF ナショナル・ディレクター

フレデリック・マニエ

Frédéric MAGNE

National Director, JCF



1. 北京への抱負

2007 年 4 月、北京におけるトラック競技の参加資格獲得へ向けての道のりが始まりました。現時点では個人種目に関しては順調に進んでいます。マディソンに 1 チーム、ポイントレースに 1 名、ケイリンへ 1 名、最後にスプリントに 1 名の選手を連れて行くことが出来ることを望みます。個人種目以外では、チームスプリントは最初からあまり上手く行っていませんが、ポイントを獲得して上位 10 位以内に食い込もうと必死に頑張っています。

よって 5 名から 7 名の選手、及び B 世界選手権大会で既に参加資格を獲得している和田見、佃選手を連れて行ければ良いと思っています。北京での結果に関しては、ケイリンに大きな期待を抱いています。参加資格を獲得出来ればポイントレースにもチャンスはあるでしょう。他の種目に関しては全て決勝へ進出することが出来るよう期待しています。

ロードに関しては、2 名の男子選手が既に北京への枠を獲得している、女子に関しても 2 名の枠を獲得出来ればよいと思っています。最終選考は 2008 年 5 月に行われる予定です。

マウンテンバイクに関しては、1 名の女子選手が参加出来るでしょうが、残念ながら男子選手は参加出来ません。

BMX に関しては、選考の過程が非常に困難であるし、オリンピックの枠を獲得するのも困難になるでしょう。しかし 2008 年 5 月の最終選考まではいくらかの希望があります。

2. ロンドンへの道のり

私にとって、JCF と契約を結んだその日から 2012 年ロンドンへ向けての道のりは始まっています。

次のオリンピックまでの 5 年間というのは非常に短い期間です。そのために戦略を今から練らなければなりません。

私の大きな目標は、現時点から若い選手達と力を合わせ、彼らをロンドンでのトップレベルへ育てあげることです。そのためには JCF はコーチ育成システムの作成を指揮し、全国で自転車競技者を育成するべきです。大学生や高校生に自転車競技をもっと普及させるべきです。私たちは全ての自転車競技連盟とネットワークを築き、再び日本がトップレベルで戦えるようになるべく力を合わせるべきです。

1) what you hope for Beijing

The process of the qualification for Beijing on the road has been start for the track since the April 2007. At the moment all of the Individual Events has been going really well, and I hope to bring with me, a team for the Madison, one rider for the point race, one for Keirin and hopefully a last one for the sprint. Beside these individual events, team sprint didn't start so well, and we still working really hard for getting the point for this event and to be top 10.

So as you can see, I hope to bring between 5 and 7 riders + Wadami and Tsukuda who have been already qualified through the B World Championships.

For the result in Beijing I have a big hope with the event of Keirin and maybe good chances in Point races if we get qualified. For the other events I hope to go through all of the finals.

For the road 2 males are already got their places for Beijing and hopefully we hope to have 2 other places for Women. The final selection will be process at May 2008.

For Mountain-bike we will have one female rider, but unfortunately no male rider.

Concerning the BMX, the selection will be really hard and it will be difficult to obtain a quota for the Olympic, but we still have some hopes until the final selection in May 2008.

2) the road to London

The road for London 2012 has already been started for me, since the first day that I signed my contract with JCF.

5 year until the next Olympic is a short time, and all of the strategy needs to be done now.

My main goal is from now to work with really young riders and trying to bring them to the top for London. For that JCF should be able to conduct and build a Training Coaching system, and to develop cycling all around Japan. Cycling needs to be more popular for the Universities, high school and students. We need to develop a network with all of the cycling federation and trying to work all together to bring back Japan to the top.

ネットワーク作りのほかには、BMXを発展させ、日本でこのスポーツを普及させるよう更なる力を注ぐ必要があると考えます。BMXは7歳から子供達に自転車の訓練をさせることが出来るので非常に大きな可能性を与えてくれます。

日本はもっと設備を充実させる必要があります。日本各地にBMXトラックを建設し、より多くの人々が参加出来るように促すべきです。

2年以内に250mの室内自転車競技場を建設する計画があります。実現すれば日本での自転車競技の発展に大いに寄与することでしょう。ワールドカップの前の合宿も海外へ行かずに国内で行えるようになります。このプロジェクトは日本のトラック競技会にとって素晴らしいチャンスとなるでしょう。このプロジェクトが早急に実現することを心より期待しています。

もう1点としては、ジュニアのための大会を発展させ、大会を通じてジュニアを育成する必要があります。2008年の頃に競技会を開催する計画があります。若い選手達は日本という枠から飛び出し、オーストラリアやヨーロッパなどのトップクラスのジュニア選手と戦う機会を持つべきです。

更には競輪学校からより多くの選手をナショナルチームへ参加させるなどして、より協力し合っていくべきです。

3. 日本での1年を振り返って

日本に来て1年が過ぎて感じるのは、北京への道のりは私が想像していたよりはるかに険しいということです。日本は長い歴史を持つ特徴的な国であり、日本で変革を起こすことは決して易しいことであるとは言えません。

しかし良かったのは、JCFと岩楯会長との契約にサインした時から私の仕事は非常に大変なものになると分っていたことです。私は日本への愛情からこの使命を受け入れました。私はこの国を愛しています。私の夢はロンドンでケイリンのオリンピックチャンピオンを誕生させることです。

これは非常に大きなチャレンジだとは思いますが、チャレンジすることこそが人生なのでから!

私は非常に幸運な人間であり仕事人だと思います。なぜならJCFの会長やスタッフは私を出る限りサポートしてくれるからです。この1年間、コミュニケーションの問題があるにも関わらずJCFのスタッフ全員が私を心強くサポートしてくれました。

一方では、下重日本自転車振興会会長が競輪学校や若い選手の育成に関して様々な手助けをしてくれました。

私は日本に住みJCFのために働くことを楽しんでいます。全てのナショナルチームがトップになれるようにこれからも全力を傾けるつもりです。

4. アジア・世界における日本の自転車競技の状況

現時点における世界での日本の自転車競技の状況は特筆すべきものではありません。2007年は国際大会では苦戦し、結果は思わしくありませんでした。バンコクでのアジア選手権大会でも状況は同じでした。トラックチームのパフォーマンスはあまり良いものではなく、チームスプリントやいくつかの種目ではチャンスを掴むことが出来ませんでした。

2008年からのトラック競技の目標はまずアジアでナンバーワンとなり、一歩ずつ世界の強豪国との間のギャップを埋めることです。

反対にロードでは男女ともに素晴らしいパフォーマンスを披露してくれ、アジア選手権大会でも良い結果を残すことが出来ました。

BMX、マウンテンバイクについてはより良いパフォーマンスを期待します。

日本の大きな問題点は、日本ではレースの機会があまりなく、トップクラスの選手達と戦うチャンスがないことです。

私の結論

JCFには大きな可能性があります。日本の自転車競技界は手と手を取り合い、ナショナルチームをより強くし、成功させるために協力し合うべきです。

私は今後も常に日本の自転車競技、また当然ナショナルチームのために全力を尽くすつもりです。そして今後5年間で多くの勝利を日本へ捧げることが出来るよう願います。

ガンバッテ

Beside this network, I fully believe of the development of BMX in Japan, and I am sure that we should trying harder to make this sport more popular in Japan, BMX offer a great chance to educate cycling to young kids from 7 years old.

Japan needs as well to have some structure, we should be able to build some BMX track all around Japan and push people to practice more in general.

A Indoor 250m Velodrome is also scheduled for the next 2 years, so it will help a lot for the development of track cycling in Japan, we will be able to hold all of our training camp before World Cup in Japan and not to go oversea to train, this project should be a wonderful opportunity for the industry of track Cycling in Japan. I really looking forward to have the project done ASAP.

One of the other topics is also to develop competition for Juniors and trying to develop them with more competition. We have a project to hold an International race in middle of 2008 in Shuzenji. Young riders should have the opportunity to get out of Japan and to compete with the top class junior riders (Australia and Europe).

The last point is also to try to involve more riders in the National Team from the Keirin School and to work more closely with them.

3) what you feel looking back a year in Japan

My feeling after one year in Japan is that the way to Beijing will be harder than I had expected. Japan is a special country with a really long history, and changes is sometimes not that easy in Japan.

But fortunately, when I signed my contract my JCF and Mr.Iwade I knew that my job duties were going to be hard. I accept this mission by affection for Japan, because I love this country, and my hope is to have in London an Olympic Champion for Keirin.

This is challenging, but life is challenging!!!!

But I consider myself as a really lucky person and worker, because I can have the full support of my President and all of the staff from JCF. During the past one year all of the JCF staff has been supporting me really strongly even with the problem of communication.

From the other hand Miss Shimoju did already a lot as well and especially with the Keirin School and the education of the young riders.

I love to be in Japan and to work for JCF, I will always give my best to bring all of the National Team to the Top.

4) the situation of Japanese Cycling in Asia and the World

The situation of the Japanese Cycling in the World is not exceptional at the moment, we suffer at the International events and the results wasn't that good for 2007. It was the same at the Asian Championships in the Track in Bangkok. The track team didn't perform so well and it was lack of chances for the Team Sprint and few other events.

My goal if from 2008 for the track to be number in Asia and step by step close the gap with the best nations in the World.

At the opposite for the road the results in Asian Championships were really good with great performances from Male and Female.

BMX and MTB needs to improve their performance.

The main problem is that Japan is isolated for races and our riders didn't have the chance to compete with the Top class riders.

My conclusion

JCF has a great potential and we should be able all of the Cycling World in Japan to improve our National Team and to work hands to hands for success.

I will always give my best for Cycling in Japan and of course to the National Team, I hope to offer many victories for Japan during the next 5 years.

Gambate

2007年トラック・アジアカップ マレーシア・ラウンド

マレーシアラウンド総合優勝!



11月23～25日、トラック・アジアカップ・マレーシア ラウンド第3戦(最終戦)が、会場のクアラルンプール自転車競技場(周長333.33m・屋外コンクリート走路)にて、連日35℃を越す気温の中開催された。特に今回はチームスプリント、スプリント・ポイントレース・ケイリンを最重点種目として戦い、マジソンレースと合わせ5種目で優勝し、北京オリンピックに必要なポイントを獲得するという目標に近づいた。

大会1日目 12月23日(金)

最初のプログラムの男子チームスプリントは、予選1分02秒540で1位のタイムで通過し、決勝はマレーシアと対戦し1分02秒215で優勝した。

女子スプリント200m予選は、沼部が12秒086の2位のタイムで通過したが、準決勝で破れ3位。石井は予選9位で準々決勝に進めなかった。

男子ケイリンは伏見・永井共に予選を勝ち上がり、決勝レースは前になった2人の中国選手が先行し、永井が外に踏むと2人が強烈にブロック、空いたインを2位になったパラシ(イラン)が先行し、大外伏見がゴール直前差し切り優勝、永井は3位となった。伏見はこの種目、いわき、タイに続き3戦全て優勝を飾った。

男子団体追抜は3、4位決定戦に進み4分29秒018で韓国に敗れ4位。

女子16kmポイントレースは和田見

が4位で石井が7位。和田見は参加直前に落車し調子は明らかに落ちていたが、北京オリンピックの出場権は掴んでいるのでいい経験になったはずだ。

大会2日目

12月24日(土)

女子500mTTは沼部が37秒667

で3位。沼部は力を出し切った。

男子1kmTTは大森が1分06秒144で2位。大森はペース配分が前半消極的だった。

男子スプリント200m予選は渡辺が10秒457、北津留が10秒470で1・2位通過し危なげなく勝ち上がった。決勝は日本人対決となり、1本目は渡辺が踏み出して北津留を交わし先勝。2本目は北津留が1周半の奇襲先行で勝ち、タイに持ち込み、3本目は北津留が先行し渡辺を振り切り優勝した。北津留は初日のチームスプリントに続き2つ目の金メダルとなった。

マジソンの飯島・盛は、9月にタイで行われたアジア選手権では惜しくも優勝を逃したが、今大会はタッチするタイミングや駆け引きで無駄な脚力を使う事無く見事1位でゴールし優勝した。

大会3日目 12月25日(日)

男子ポイントレースが行なわれ飯島・盛両選手が積極的に走り、最後の20周で飯島が集団を抜け出し、他の選手をラップし優勝した。飯島も前日のマジソンに続いて二種目を制した。

毎日行なわれたミーティングでマニエ監督は、優勝してもアジアで通用する走りではなく、ワールドカップ・世界選手権・オリンピックの世界に繋がる走りを目指して、その度に厳しく選手・スタッフに注意を促がしている。

新監督が就任し10ヶ月、選手の試合に望む意識が変わってきている。自分の事は自分で、決められた時間には行動を始め、何をすべきか考える。ナショナルチームの選手は強い目的意識、自覚が無くてはいけない。など、言われると当たり前の事だが、まずは心構えから始めたマニエ流のチーム作りはまだこれからである。彼は日本とフランスの融合を目指して、更に上を目指しこれから本番が始まる。(阿部良二)

【競技結果】

2007年トラック・アジアカップ・マレーシア・ラウンド
(2007/11/23-25 マレーシア・クアラルンプール)

男子スプリント

- 1 北津留 翼 JPCA・福岡
- 2 渡邊 一成 JPCA・福島
- 3 Wang Qi Ming CHN

男子1kmタイムトライアル

- 1 MOHD RIZAL Tisin MAS 1:04.979
- 2 大森 慶一 JPCA・北海道 1:06.144
- 3 AHMADI IRI 1:07.193

男子ケイリン

- 1 伏見 俊昭 JPCA・福島
- 2 PARASH IRI
- 3 永井 清史 JPCA・岐阜

男子4km個人追抜競走

- 1 TUYCHIER Vladimir UZB 4:40.889
- 2 FENG Chun Kai TPE 4:46.230
- 3 KHOROSHAHI IRI 追抜勝
- 4 倉野隆太郎 JPCA・愛知 OVT

男子ポイントレース(24km)

- 1 飯島 誠 JPCA・ブリヂストン 40p
- 2 WONG Kam Po HKG 19p
- 3 TUYCHIVE Vladimir UZB 17p
- 5 盛 一大 愛知・愛三工業 12p

男子マディソン(33.33km)

- 1 日本 飯島・盛 17p
- 2 イラン 12p
- 3 韓国 11p

男子チームスプリント

- 1 日本 渡邊・北津留・永井 1:02.215
- 2 マレーシア 1:04.102
- 3 中国 1:03.772

男子4km団体追抜競走

- 1 イラン 4:23.642
- 2 マレーシア 4:28.000
- 3 韓国 4:28.220
- 4 日本 倉野・角・盛・飯島 4:29.018

女子500mタイムトライアル

- 1 Li Qing Yu CHN 37.145
- 2 HSIAO Mei Yu TPE 37.400
- 3 沼部早紀子 栃木・順天堂大 37.667

女子スプリント

- 1 Li Qing Yu CHN
- 2 FATEHAH Mustafa MAS
- 3 沼部早紀子 栃木・順天堂大
- 9 石井 寛子 埼玉・明治大学

女子3km個人追抜競走

- 1 LEOW Hoay Sim MAS 4:04.721
- 2 Ma Fangfang CHN 4:06.974
- 3 JUNG In Kyong KOR 4:06.121
- 4 和田見里美 鳥取・中京大学 4:06.615

女子ポイントレース(16km)

- 1 Wu Yunmei CHN 23p
- 2 NA Hee Kyung KOR 22p
- 3 KANG Eun Mi KOR 18p
- 4 和田見里美 鳥取・中京大学 7p
- 7 石井 寛子 埼玉・明治大学 5p

団体総合成績

- 1 日本 104p 2 中国 58p 3 マレーシア 52p



ケイリン優勝の伏見(中央)

2007-2008 UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス#1・2

北京五輪枠をかけ熾烈な戦い!



2008年北京五輪枠をかけたUCIワールドカップが、世界各国よりナショナルチーム・UCIトレードチーム約80チーム・400名の参加で開幕した。

第2戦の北京大会は、北京五輪のテストイベントとしても行われ、会場では本番を想定しての厳しいセキュリティの中で行われた。

また、今シーズンより女子の3km団体追抜競走(3名)も採用された。

UCIワールドカップは全4戦(シドニー・北京・ロサンゼルス・コペンハーゲン)開催され、その総合成績により最も高得点のチームにワールドカップが与えられる。

また、全4戦の総合ポイントにより個人種目は優勝者に、チーム種目は国に、北京五輪参加資格が与えられる。なお、北京五輪出場枠にかかわる2007-2008年UCI個人トラック・ランキングのポイントが基準に従って与えられる。また、3月末にマンチェスターで行われる世界選手権の出場枠もほぼこのUCIトラック個人ランキングにより決まるので、非常に重要なシリーズとなっている。

北京五輪の出場枠について簡単に説明すると...

UCI参加資格制度により、①世界選手権の個人種目の優勝者、チーム種目の優勝国。②ワールドカップ全4戦の個人種目の総合優勝者、チーム種目の総合優勝国。③B世界選での個人種目の優勝者。(2007年6月に南

アフリカで開催済)。④2007-2008年UCI個人トラック・最終ランキングによる。(男子は、スプリント5位以内、ケイリン9位以内、ポイントレース6位以内、個人追抜5以内、チームスプリント10位以内、マディソン13位以内、団体追抜8位以内。女子はスプリント9位以内、個人追抜9位以内、ポイントレース8位以内に国枠が与えられる。)またその他、自転車競技としての総出場人数枠(500名)、国としての出場人数枠(男子11名・女子3名)、種目によって国の出場人数・チーム数(1から2)の制限がある。

例えば、チームスプリントでは、国ランキングに10位以内に入れば、チームスプリントに出場枠を1つ獲得でき、そしてそのチームスプリントの出場メンバーに、スプリント1枠、ケイリン1枠が与えられる。なお、11月1日現在のUCI国ランキングでは、日本のチームスプリントは20位で、今後ポイント獲得していかなければ厳しい状況である。また、男子スプリントは渡邊一成が230pで7位、北津留翼が170pで10位。男子ケイリンは伏見俊昭が330pで2位。男子ポイントレースは飯島誠が240pで3位、盛一大が130pで10位など。

女子はB世界選(南アフリカ)において、スプリントで佃咲江(北海道・北海商科大)、ポイントレースで和田見里美(鳥取・中京大)が優勝し、参加資格枠を獲得している。

【競技結果】

07-08 UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス#1
(2007/11/30-12/02 オーストラリア・シドニー)
バンク・クレイ競技場(屋内板張250m)

男子スプリント

- | | | |
|---|------------------|---------------|
| 1 | BOURGAIN Mickaël | COF |
| 2 | SIREAU Kevin | COF |
| 3 | HOY Chris | GBR |
| 4 | BAUGE Gregory | FRA |
| - | 北津留 翼 | JPCA・福岡 予選19位 |
| - | 渡邊 一成 | JPCA・福島 予選29位 |

男子1kmタイムトライアル

- | | | | |
|----|-------------------|----------|----------|
| 1 | D'ALMEIDA Michaël | FRA | 1:02.588 |
| 2 | LI Wen Hao | CHN | 1:03.575 |
| 3 | BOLIBRUKH Yevgen | UKR | 1:03.629 |
| 14 | 大森 慶一 | JPCA・北海道 | 1:06.135 |

男子ケイリン

- | | | |
|----|------------|---------|
| 1 | HOY Chris | GBR |
| 2 | EDGAR Ross | SIS |
| 3 | BOS Theo | NED |
| 10 | 伏見 俊昭 | JPCA・福島 |

男子スクラッチ(15km)

- | | | |
|---|--------------|---------|
| 1 | KLUGE Roger | FOC |
| 2 | BELL Zachary | CAN |
| 3 | KADLEC Milan | ADP |
| | 盛 一大 | 愛知・愛三工業 |

男子ポイントレース(30km)

- | | | | |
|----|-------------------|------------|-----|
| 1 | HENDERSON Greg | NZL | 31p |
| 2 | TAULER LLULL Toni | ILB | 27p |
| 3 | MEYER Cameron | TOS | 24p |
| 13 | 飯島 誠 | JPCA・BSアスカ | 3p |

男子マディソン(40km)

- | | | | |
|---|---------|-----|---------|
| 1 | オランダ | NED | 0p |
| 2 | スペイン | ESP | (-1)10p |
| 3 | デンマーク | DEN | (-2)18p |
| | 日本 盛・飯島 | | 予選敗退 |

男子チームスプリント

- | | | | |
|----|--------------|-----|--------|
| 1 | TOSHIBA | AUS | 44:639 |
| 2 | RAD-NET. | GER | 44:813 |
| 3 | COFIDIS | FRA | 44:746 |
| 11 | 日本 北津留・永井・渡邊 | | 45:667 |

女子3km個人追抜競走

- | | | | |
|----|-------------------|---------|----------|
| 1 | MACTIER Katie | AUS | 3:38.379 |
| 2 | SEREIKAITE Vilija | SAF | 3:40.393 |
| 3 | THÜRIG Karin | SUI | 3:40.300 |
| 29 | 和田見里美 | 鳥取・中京大学 | 3:53.706 |

女子スクラッチ(10km)

- | | | |
|----|----------------------------|---------|
| 1 | GONZALEZ VALDIVIESO Yumari | CUB |
| 2 | CUCINOTTA Annalisa | ITA |
| 3 | CHULKOVA Anastasiya | RUS |
| 14 | 和田見里美 | 鳥取・中京大学 |

女子ポイントレース(20km)

- | | | | |
|---|-------------------|---------|-----|
| 1 | BRONZINI Giorgia | SAF | 11p |
| 2 | LI Yan | CHN | 10p |
| 3 | MACHACOVA Jarmila | CZE | 9p |
| | 和田見里美 | 鳥取・中京大学 | |



#2 BEIJING



スクラッチ決勝で先行グループを引く盛



チームスプリント予選の北津留・渡邊・永井



ケイリン予選の伏見(左)



スクラッチ予選で集団を引く和田見



女子個人追抜の和田見



スプリント1/4B決勝の渡邊(右)



ポイントレース予選で集団を引く飯島。飯島の後が金メダルの LLANERAS



団体金メダルのイギリス



スクラッチ金メダルの FRIEDMAN



1kmTT 決勝の大森



ポイントレース金メダルの LLANERAS



チームスプリント金メダルのフランス



マディソン決勝の盛(左)と飯島



マディソン金メダルのフランス



スプリント金メダルの BOS



ケイリン金メダルの HOY (中央)



3km 個人追抜金メダルの MACTIER



在中国日本大使館からの激励を受ける

【競技結果】

'07-'08 UCIトラック・ワールド・カップ・クワンクス#2
(2007/12/07-09 中国・北京)
老山自転車競技場 (屋内板張 250m)

男子スプリント

- 1 BOS Theo NED
- 2 BOURGAIN Mickael COF
- 3 NIMKE Stefan RAD
- 13 渡邊 一成 JPCA・福島
- 27 北津留 翼 JPCA・福岡

男子1km タイムトライアル

- 1 PERVIS Francois FRA 1:02.029
- 2 BOLIBRUKH Yevgen UKR 1:02.943
- 3 LI Wen Hao CHN 1:03.702
- 10 大森 慶一 JPCA・北海道 1:06.087

男子ケイリン

- 1 HOY Chris GBR
- 2 TOURNANT Arnaud FRA
- 3 MULDER Teun NED
- 13 伏見 俊昭 JPCA・福島

男子スクラッチ

- 1 FRIEDMAN Michael USA
- 2 PEREZ Walter Fernando ARG
- 3 MERTENS Tim BEL
- 8 盛 一大 愛知・愛三工業

男子ポイントレース (30km)

- 1 LLANERAS ROSSELLO Joan ESP 60p
- 2 NEWTON Chris RCY 54p

- 3 MEYER Cameron TOS 53p
- 9 飯島 誠 JPCA・BSアンカー 25p

男子マディソン (40km)

- 1 フランス 1p
- 2 T-MOBILE TRACK TEAM 0p
- 3 ウクライナ 0p
- 14 日本 盛・飯島 (-1)0p

男子チームスプリント

- 1 オランダ 44.394
- 2 フランス 44.414
- 3 イタリア 44.837
- 11 日本 北津留・永井・渡邊 45.295

女子3km 個人追抜競走

- 1 MACTIER Katie AUS 3:37.620
- 2 ROMERO Rebecca GBR 3:40.528
- 3 HAMMER Sarah USA 3:37.112
- 30 和田見里美 鳥取・中京大学 3:55.404

女子スクラッチ (10km)

- 1 VOS Marianne DSB
- 2 GOSS Belinda AUS
- 3 GONZALEZ VALDIVIESO Yumari CUB
和田見里美 鳥取・中京大学

女子ポイントレース (20km)

- 1 VOS Marianne DSB 12p
- 2 GONZALEZ PEREZA Yoanka CUB 12p
- 3 BATES Katherine TMT 9p
和田見里美 鳥取・中京大学



2007 年世界室内自転車競技選手権大会

サイクルサッカー B グループ優勝!



11月3日、日本を出発し、同日ドイツ・フランクフルトに入った。フランクフルトスポーツ学校で7日の午前中まで大会前調整し、スイスに移動した。

フランクフルトではスポーツ学校で体を慣らし、地元クラブでのチームとゲーム中心の調整を行った。5日は「シュタインフルト」、6日は「ヘッツハイム」へ出向き、練習試合でドイツチームと戦い、外国チームのスピード・パワーに対する実戦の感を掴んでいた。ヘッツハイムは、前年世界選手権大会で優勝を果たしたドイツナショナルチーム (Christian Hess / Thomas Abel) が所属するクラブで、Christian Hess より直接コーチングを受けることが出来、大いに参考になった。

11月7日、大会会場のある、スイス・Winterthurへ移動した。会場は10年前のスイス大会と同じ場所で懐かしい。サイクルサッカーはAグループ6カ国、Bグループ5カ国、Cグループ4カ国で、日本はBグループの参戦である。日本チームは、今年からペアを組んだ松

田・木下が臨んだ。世界大会経験のある松田、木下は初めてであったが、チームはベストコンディションで、これまでの日本最強のチームに仕上がっていた。Bグループ第1試合で前年AグループからBグループに降格になったフランスがスペインに敗れる波乱のスタート。日本は初戦のルーマニアに5対3で敗れ、懸念していた立ち上がりの悪さが出て厳しいスタートとなったが、それが、後の試合に良い緊張感を与えたと思う。その後、ルーマニアはフランスと2対2で引き分け、スロヴァキアとも2対2で引き分け最終的に2勝2分の勝ち点8。日本はスロヴァキアに8対1で快勝し、調子にのり勝ち点を重ね、最終のフランス戦を残し勝ち点6であった。フランスに勝てばBグループ優勝、引き分ければ2位という状況で最終戦を向かえた。厳しい戦いとなったが、6対4でフランスを制しBグループで優勝した。そしていよいよAグループとの入れ替え戦、相手はベルギーである。過去、Bグループでの優勝でAグループ6位国との自動入れ替えでAグループ昇格はあったが、入れ替え戦での勝利はこれまでまだ無い。老練なベルギーチームとの戦いは本当に厳しい展開となったが、3対2で逃げ切り、悲願の入れ替え戦勝利でのAグループ入りを果たした。木下・松田はその力を遺憾なく発揮したが、今回セカンドチームで帯同した大野・芦塚選手のサポートも大きな力となった、その意味では日本選手

全員のチーム力であったと思う、今後のチーム編成の参考にしたい。

サイクルフィギュアは、大会2日目の男子シングルに芦田史朗が出場し、278.75ptで成績は15位。大会3日目の女子シングルに宮崎沙織が出場、231.86ptで成績は22位。伴奏曲が間違われるアクシデントがあり本人には満足のいく演技ではなかったと思うが、アクシデントのなか良く頑張ったと思う。

サイクルサッカーは、かなり世界のトップレベルに近づいてきている。木下・松田にはその真価を、来年の世界選手権Aグループでの戦いで示して欲しい。必ず結果を出せると確信しています。サイクルフィギュアは男女ともに世界レベルにどう上げていくか、強化方針もふくめ今後の課題である。(佐藤康彦)

【競技結果】

2007 年世界室内自転車競技選手権大会 (2007/11/9-11 スイス・Winterthur)

サイクルサッカー B グループ

- 1 日本 木下直也・松田 鋼
- 2 ルーマニア
- 3 スペイン

男子サイクルフィギュア

- | | | |
|-------------------|-----------|--------|
| 1 Robin Hartmann | GER | 347.25 |
| 2 David Schnabel | GER | 346.97 |
| 3 Michael Brugger | GER | 342.81 |
| 15 芦田 史朗 | 千葉・アソビに京葉 | 278.75 |

女子サイクルフィギュア

- | | | |
|---------------|----------|--------|
| 1 Anja Scheu | GER | 331.60 |
| 2 Sarah Kohl | AUT | 328.51 |
| 3 Sandra Beck | GER | 326.35 |
| 22 宮崎 沙織 | 東京・東京輪球会 | 231.86 |

日本航空
空で逢いましょう。

Dream Skyward.

ご予約・お問い合わせ

www.jal.co.jp

国内線 ☎ 0120-25-5971
(営業時間 6:30~22:00/年中無休)

国際線 ☎ 0120-25-5931
(営業時間 8:00~21:00/年中無休)

第38回全日本室内自転車競技選手権大会

サイクルサッカーは金剛が初優勝!



第38回全日本室内自転車競技選手権大会は、11月23・24日の2日間、10年ぶり2回目となる鹿児島県南さつま市にて開催された。サイクルサッカー27チーム(社会人18チーム・学生9チーム)、サイクルフィギュア男子3名、女子3名の参加で熱戦が繰り広げられた。

サイクルサッカーは、1日目1次予選トーナメントと敗者復活トーナメントの40試合が行われ、社会人8チームが2日目の2次予選リーグに進んだ。2日目2次予選リーグA組では、過去2回全日本優勝の地元C.C.Kサンディーズかせだ(現王園・手島)が1位。本年世界選手権代表セカンドチームの「舞馬」(大野・芦塚)が2位で通過。B組は本年世界選手権代表チームで、先の世界選手権大会において、見事Bグループで優勝しAグループ入りを果たした「金剛」(木下・松田)が1位。全日本初のベスト4入りとなる「DANDELION」

(前田・安田)が2位となった。決勝トーナメントでは、まず「C.C.Kサンディーズかせだ」が「DANDELION」を5対1で下し決勝進出を決めた。続いて本年世界選手権代表チーム同士の対戦になった「金剛」VS「舞馬」は、7対2で「金剛」が制し決勝進出となった。決勝戦では「C.C.Kサンディーズかせだ」が善戦するも、その無い「金剛」が4対1で初優勝を掲げた。初優勝の「金剛」は、今年から新しくペアを組んだチームで、各々は別のペアで全日本優勝経験を持つ実力のある選手同士だが、多少ならずとも不安のあったコンビネーションを克服し、見事な戦いぶりであった。尚、今大会6位入賞を果たし、過去6連覇を含み9度も全日本を制した「NITTSU」(松本・山本)が解散することになった。永年の活躍にエールを贈りたい。

サイクルフィギュアは、2日目に午前・午後の2回演技で競われた。男子では、今年の世界選手権代表選手の芦田史朗(アンフィニ京葉)が、281.40ptで昨年に続く日本記録更新での2連覇・3度目の

優勝。女子は堀井和美(ブルーレイクエンジェル)が260.30ptで6連覇・12回目の優勝を達成した。

全般的に、サイクルサッカーでは今大会7位に入賞し先のアジアインドアゲームズ(マカオ)で優勝した「いよかん」(田中・平野)をはじめとする、更なる若いチームの台頭に期待したい。優勝した「金剛」には、来年3月に出場するワールドカップファイナルでの上位ランク入賞、次回世界選手権大会Aグループでの上位進出と、国際大会で実績を上げていって欲しい。サイクルフィギュアでは、男子は芦田に続き着実に力をつけてきた芝山、女子は堀井に続く宮崎沙織・佐藤凧沙らに、世界で戦えるこれからの成長を大いに期待したい。(佐藤康彦)



【競技結果】

第38回全日本室内自転車競技選手権大会
(2007/11/23-24 鹿児島・南さつま)

サイクルサッカー

- 1 木下 直也 / 松田 鋼 金剛
- 2 手島 敏光 / 現王園仁志 C.C.K.サンディーズ・K
- 3 大野 和俊 / 芦塚 正博 舞馬
- 4 前田 寛之 / 安田 辰弥 DANDELION
- 5 山本 勝敏 / 松本 恒治 NITTSU
- 6 武川 健 / 蓑原 征也 ASICS

サイクルフィギュア男子シグナル

- 1 芦田 史朗 アンフィニ京葉 281.40
- 2 芝山 耕輔 東京輪球会 246.74
- 3 縄田 末雄 バイシクルフィギュア07 205.51

サイクルフィギュア女子シグナル

- 1 堀井 和美 京滋C.F.Cブルーレイク 260.30
- 2 宮崎 沙織 東京輪球会 245.22
- 3 佐藤 凧沙 京滋C.F.Cブルーレイク 241.95



第13回全日本シクロクロス選手権大会

男子は辻浦が6連覇・女子は豊岡が3連覇



男子ゴール辻浦(左)と山本



女子ゴール豊岡

去る12月9日、第13回全日本シクロクロス選手権が大阪・堺市海とのふれあい広場特設コース(1周2.63km)で行われた。近年、シクロクロスの競技人口も増え、冬場の自転車レースとして盛り上がりを見せる。地元レース・関西シクロクロスも併催され、400名もの参加選手と、大会を見に来た観客で観戦ポイントでは幾重にも人が重なり、多くの声援が飛び交った。

レースは海風が吹く中、午前中に女子、午後男子が行われた。

女子は9名が出走した。最初から豊岡が飛び出し、一度も前を譲らざることなく2位に37秒の差をつける圧倒

的な力で女子初の3連覇を達成した。また、2位にはオランダから一時帰国した荻島に中盤で追いつき、最終周でアタックを仕掛けた酒井が入った。

表彰式で豊岡は「この優勝のために支えてくれた周りの人、そして迷惑をかけた両親に感謝している。」と言って涙を流した。

男子は59名が出場、芝と砂煙を巻き上げながらスタートを切った。スタートして間もなく辻浦、山本(幸)、竹之内、丸山の4人がバックを形成し、レースを引っ張った。中盤、山本が一人飛び出しトップに躍り出るが、辻浦だけが単独で追いつき、そこから最後

まで二人の競り合いとなった。同じチームながら二人が協力しているのではなく、お互いが揺さぶりあい、前に出ようとする気持ちが伝わってくる走り。3位争いは丸山・竹之内の二人がデッドヒートを繰り返しながら前に追いつこうとする。

最後はゴール手前の直線で仕掛けた辻浦が粘る山本を抑え優勝し、2002年からの6連覇を達成した。3位には丸山(長野・スワコR)が竹之内(TREK)を最終周で振りきった。(伊藤真里子)

【競技結果】

第13回全日本シクロクロス選手権大会
(2007/12/09 大阪・堺)

男子E1-1 (26.30km)

- | | | | |
|---|-------|-------------|---------|
| 1 | 辻浦 圭一 | 奈良 プリヂストン | 1:01:07 |
| 2 | 山本 幸平 | 北海道 プリヂストン | +0:01 |
| 3 | 丸山 厚 | 長野 スワコーシング* | +1:40 |



- | | | | |
|----|-------|---------------|-------|
| 4 | 竹之内 悠 | 京都 TREK (U23) | +1:47 |
| 5 | 小坂 正則 | 長野 スワコーシング* | +2:51 |
| 6 | 三船 雅彦 | JPCA マトリックス | +3:05 |
| 7 | 山本 聖吾 | 長野 快レーシング* | +3:06 |
| 8 | 大原 満 | 愛知 愛三工業 | +3:08 |
| 9 | 小森 亮平 | 広島 マチネボシ(U23) | +3:57 |
| 10 | 永良 大誠 | 兵庫 グランデパール | +4:27 |

女子E1-1 (15.78km)

- | | | | |
|---|-------|---------------|-------|
| 1 | 豊岡 英子 | 大阪 | 41:25 |
| 2 | 酒井 真清 | 大阪 Testach R. | +0:37 |
| 3 | 荻島 美香 | 埼玉 | +0:40 |



- | | | | |
|---|-------|---------------|--------|
| 4 | 田近 郁美 | 岐阜 GOD HILL | +2:10 |
| 5 | 志村みち子 | 埼玉 あずみの | +2:36 |
| 6 | 深井 薫 | 大阪 BMC | +3:23 |
| 7 | 佐藤紗矢香 | 北海道 bicinoko | +3:57 |
| 8 | 久保田珠実 | 滋賀 ストラタレーシング* | +7:50 |
| 9 | 三井 由香 | 兵庫 パロスタパール | -2laps |

JCF 2007年～2008年シクロクロス強化指定選手

(2007.11.13 発表)

強化指定選手A

- <エリート男子> 辻浦 圭一(奈良)
 <エリート女子> 豊岡 英子(大阪)・荻島 美香(埼玉)・志村みち子(埼玉)
 田近 郁美(岐阜)
 <ジュニア男子> 中山 和也(長野)

強化指定選手B

- <エリート男子> 小坂 正則(長野)・丸山 厚(長野)
 <エリート女子> 酒井 真清(大阪)
 <アンダー-23> 竹之内 悠(京都)・藤岡 徹也(兵庫)・伊澤 優大(滋賀)
 <ジュニア男子> 合田 啓祐(香川)

強化指定選手C

- <エリート男子> 三船 雅彦(JPCA)・中間森太郎(埼玉)・飯塚 隆文(長野)
 <エリート女子> 佐藤紗矢香(北海道)
 <アンダー-23> 大塚 航(京都)・松井 響(京都)・柿澤 大貴(長野)

関西シクロクロスミーティング野洲ラウンド

アジア唯一の< UCI クラス 2 >大会



水際を独走する辻浦

11月25日、滋賀県・琵琶湖畔のマイアミランドで、"UCIクラス2"の関西シクロクロスミーティング野洲ラウンドが行われた。

琵琶湖畔の砂浜を含むコースが設定され、砂地をきらう選手は水際ぎりぎりのラインを攻める姿も見られた。

レースは、男子が辻浦、女子は豊岡がそれぞれ独走ゴールを決めた。



男子スタート



砂浜を行く女子豊岡



男子ゴール辻浦



女子ゴール豊岡



1周目の男子先頭集団



女子のスタート

【競技結果】

関西シクロクロスミーティング 野洲ラウンド
(2007/11/25 滋賀・野洲)

男子リト

- 1 辻浦 圭一 チームブリヂストンアンカー 1:08:39
- 2 三船 雅彦 MATRIX 1:10:45
- 3 小坂 正則 スワレーシングチーム 1:11:00



- 4 丸山 厚 スワレーシングチーム 1:11:05
- 5 池本 真也 和光機器 タムクラブ 1:11:15
- 6 竹之内 悠 TREK (U23) 1:11:31
- 7 江下健太郎 Team M/X Salsa 1:12:10
- 8 山本 聖吾 快レーシング 1:13:26
- 9 入江 克典 シマノ・リンク 1:13:33
- 10 伊澤 優大 Bee Club (U23) 1:13:54

女子リト

- 1 豊岡 英子 37:23
- 2 志村みち子 イキップ あづみの 39:25
- 3 深井 薫 BMC 43:39



- 4 伊坂 和花 COWBOY 43:53
- 5 佐藤紗矢香 bicinoko.com 43:58
- 6 中村由香里 ナカワ AS 45:06
- 7 久保田珠実 ストラダー R 46:35
- 8 岩田 知夏 クラブシムハースト 48:14

未永くお付き合いいただくために。



シマノ製品をご愛用いただきまして

ありがとうございます。

シマノではユーザーの皆様へ、当社製品と

未永くお付き合いいただけるよう、

各種補修用パーツをご用意しております。

- 製品についている取扱い説明書をご使用前に必ずお読みください。
- 機能保証のために分解できないパーツもあります。
- お近くの自転車店でご相談下さい。別途送料がかかる場合があります。
- 在庫状況により、品切れの場合もあります。予めご了承下さい。

SHIMANO

www.shimano.com

XBC001-A

競技大会 結果

大会名、チーム名等については略して記載

'07-'08 UCIシクロクロス・ワールドカップ 第1戦 (2007/10/21 ヘルキーン-Kalmthout)

女子E1-T

- 1 VAN DEN BRAND Daphny NED 39:43
- 2 COMPTON Katherine USA +0:03
- 3 FERRIER-BRUNEAU Christelle FRA +1:13
- 28 萩島 美香 埼玉・De Volharding +4:16
- 32 豊岡 英子 大阪 +5:01

'07-'08 UCIシクロクロス・ワールドカップ 第2戦 (2007/10/27 ティェー・Tabor)

女子E1-T

- 1 COMPTON Katherine USA 40:04
- 2 VAN DEN BRAND Daphny NED +0:54
- 3 HORMES-RAVENSTIJN Reza NED +1:03
- 24 豊岡 英子 大阪 +6:08
- 25 萩島 美香 埼玉・De Volharding +6:25

'07-'08 UCIシクロクロス・ワールドカップ 第4戦 (2007/11/24 ヘルキーン-Koksijde)

女子E1-T

- 1 VAN DEN BRAND Daphny NED 41:32
- 2 COMPTON Katherine USA +0:07
- 3 SALVETAT Maryline FRA +0:10
- 30 萩島 美香 埼玉・De Volharding +5:46

07-08 シクロクロス・ナショナルセレクトシヨソシリーズ

第1戦 北海道シクロクロスラウンド #3 (2007/10/14 北海道・長沼)

男子E1-T

- 1 山田 夏樹 equipe mistral 1:08:18

- 2 尾崎 義規 チームよしー 1:11:05
- 3 富田 智 自衛隊幌別駐屯地 1:11:49
- 4 山崎 武司 ONO&CF 1:11:58

女子E1-T

- 1 佐藤紗矢香 bicinoko.com 50:48

第2戦 シクロクロス富山 #2 黒部 (2007/10/28 富山・黒部)

男子E1-T

- 1 辻浦 圭一 チームブリヂストンアンカー 1:00:50
- 2 竹之内 悠 TREK (U23) 1:00:52
- 3 小坂 正則 スワコレーシングチーム 1:01:26
- 4 丸山 厚 スワコレーシングチーム 1:02:58
- 5 入江 克典 シムパド・リンクン 1:03:19
- 6 江下健太郎 Team M/X Salsa 1:03:20
- 7 伊澤 優大 Bee Club (U23) 1:03:44
- 8 松井 響 立命館大学 (U23) 1:05:03
- 9 船岡 洋 Testach-Racing 1:05:13
- 10 横須賀達雄 JMS by AMB 1:06:06

女子E1-T

- 1 田近 郁美 GOD HILL 45:33
- 2 酒井 真清 Testach Racing 45:55
- 3 志村みち子 イキップ あづみの 47:31
- 4 佐藤紗矢香 bicinoko.com -1lap

第3戦 シクロクロスミティンク #2 霧ヶ峰 (2007/11/18 長野・霧ヶ峰)

男子E1-T

- 1 山本 幸平 国際アウトドア専門学校 59:52
- 2 辻浦 圭一 チームブリヂストンアンカー 1:01:40
- 3 小坂 正則 スワコレーシングチーム 1:01:41
- 4 丸山 厚 スワコレーシングチーム 1:01:50
- 5 山本 聖吾 快レーシング 1:02:14
- 6 木村 将行 なるしまフレンド 1:06:18
- 7 小坂 光 スワコレーシング (U23) 1:06:21
- 8 江下健太郎 Team M/X Salsa 1:07:05
- 9 伊澤 優大 Bee Club R.T (U23) -1lap
- 10 澤田 雄一 チーム サイクルマインド -1lap

女子E1-T

- 1 田近 郁美 GOD HILL 42:35
- 2 酒井 真清 Testach Racing 42:53
- 3 志村みち子 イキップ あづみの 43:07

シクロクロス・セレクトシヨソシリーズ 総合順位表

男子E1-T

- 1 辻浦 圭一 チームブリヂストンアンカー
- 2 山本 幸平 チームブリヂストンアンカー
- 3 小坂 正則 スワコレーシングチーム
- 4 丸山 厚 スワコレーシングチーム
- 5 山田 夏樹 equipe mistral
- 6 三船 雅彦 MATRIX
- 7 山本 聖吾 快レーシング
- 8 江下健太郎 Team M/X Salsa
- 9 尾崎 義規 チームよしー
- 10 入江 克典 シムパド・リンクン
- 11 富田 智 自衛隊幌別駐屯地
- 12 大原 満 愛三工業
- 13 山崎 武司 ONO&CF
- 14 船岡 洋 Testach-Racing
- 15 澤田 雄一 チーム サイクルマインド
- 16 永良 大誠 グランデハール播磨
- 17 池本 真也 和光機器 タムクラブ
- 18 木村 将行 なるしまフレンド
- 19 横須賀達雄 JMS by AMB
- 20 矢野 大介 INDEPENDENT

男子U23

- 1 竹之内 悠 TREK
- 2 伊澤 優大 Bee Club
- 3 大塚 航 masahikomifune
- 4 松井 響 立命館大学
- 5 小森 亮平 マウンテンボート
- 6 小坂 光 スワコレーシングチーム

E1-T女子

- 1 豊岡 英子
- 2 田近 郁美 GOD HILL
- 3 酒井 真清 Testach Racing
- 4 佐藤紗矢香 bicinoko.com
- 5 志村みち子 イキップ あづみの
- 6 萩島 美香
- 7 深井 薫 BMC
- 8 久保田珠実 ストラタレーシング
- 9 伊坂 和花 COWBOY
- 10 中村由香里 ナカワ AS.K' デザイン

2008年アジア自転車競技選手権 奈良大会 開催のご案内

第28回アジア自転車競技選手権大会

第15回アジア・ジュニア自転車競技選手権大会

トラックレース：奈良県営競輪場 (周長 333.33m)

4月10日(木)～13日(日)

ロードレース：奈良市／山添村 布目ダム周回コース (1周 10.1km/7.7km)

4月15日(火)～17日(木)

主催：アジア自転車競技連合／財団法人 日本自転車競技連盟

2007ツアー・オブ・タイランド 日本代表選手団

大会名 2007 ツアー・オブ・タイランド (UCI 777-2.2)
 開催場所 タイ
 大会期間 2007年12月16日～21日
 派遣期間 2007年12月14日～24日
 選手選手団
 監督 三浦 恭資 (JCF 強化コーチ)
 メカニック 齋藤 健吾 (JCF ロード競技部会支援スタッフ)
 マッサー 中島 康仁 (JCF ロード競技部会支援スタッフ)
 選手 柿沼 章 (栃木・チームミヤタ)
 内間 康平 (沖縄・鹿屋体育大学)
 伊藤 雅和 (鹿児島・鹿屋体育大学)
 平塚 吉光 (静岡・スミタラパネロパールイズミ)
 越海 誠一 (大分・日本大学)

タスマニア・スポーツカーニバル 日本代表選手団

大会名 タスマニア・スポーツカーニバル
 開催場所 オーストラリア・タスマニア
 大会期間 2007年12月26日・28日・29日～30日
 派遣期間 2007年12月22日～2008年1月1日
 選手選手団
 監督 阿部 良二 (JCF 強化コーチ)
 メカニック 森 昭雄 (JCF 強化スタッフ)
 マッサー 酒井 修 (JCF 強化スタッフ)
 総務 吉井 功治
 選手 渡邊 一成 (JPCA・福島)・永井 清史 (JPCA・岐阜)
 北津留 翼 (JPCA・福岡)・田中 晴基 (JPCA・千葉)
 坂本 貴史 (青森・日本競輪学校)
 土屋 壮登 (埼玉・順天堂大学)
 和田見里美 (鳥取・中京大学)

2007ツアー・オブ・サウスチャイナシー
日本代表選手団

大会名 2007 ツアー・オブ・サウスチャイナシー (UCI 777-2.2)
 開催場所 ホンコン・中国・マカオ
 大会期間 2007年12月23日～30日
 派遣期間 2007年12月21日～2008年1月1日
 選手選手団
 監督 福田 公生 (JCF 強化コーチ)
 メカニック 鬼原 積 (JCF 強化スタッフ)
 選手 飯島 誠 (JPCA・プリヂストンアンカー)
 相川 将 (埼玉・プリヂストンアンカー)
 盛 一大 (愛知・愛三工業レーシング)
 西谷 泰治 (愛知・愛三工業レーシング)
 角 令央奈 (兵庫・鹿屋体育大学)
 片山 和正 (岡山・鹿屋体育大学)

2008年ジョルジア・マレーシア 日本代表選手団

大会名 2008年ジョルジア・マレーシア
 開催場所 マレーシア
 大会期間 2008年1月7～13日
 派遣期間 2008年1月5～14日
 選手選手団
 監督 三浦 恭資 (JCF 強化コーチ)
 メカニック 齋藤 健吾 (JCF ロード競技部会支援スタッフ)
 マッサー 宮島 正典 (JCF ロード競技部会支援スタッフ)
 選手 飯島 誠 (JPCA・プリヂストンアンカー)
 福田 真平 (神奈川・プリヂストンアンカー)
 吉田 隼人 (奈良・榛生昇陽高校)
 窪木 一茂 (福島・学法石川高校)
 伊藤 雅和 (鹿児島・鹿屋体育大学)
 内間 康平 (沖縄・鹿屋体育大学)

連盟の動き (11月中旬～12月中旬)

- | | | |
|--------|------------------------------|--------------------------|
| 11月14日 | 平成19年度第7回広報部会 | 於：東京・日本自転車会館3号館3階 |
| 16日 | サイクルモード2007東京会場出展 | 於：千葉・幕張メッセ(～19日) |
| 20日 | '07ACCトラックアジアカップ第3戦選手団出発 | 於：マレーシア・クアラルンプール(帰国→27日) |
| 25日 | '07-'08トラックワールドカップ第1・2戦選手団出発 | 於：シドニー/北京(帰国→12/10日) |
| 29日 | 平成19年度上期JCF監事監査 | 於：東京・日本自転車会館3号館3階 |
| 12月3日 | JOCスポーツジャーナリストセミナー | 於：東京・共同通信社会議室 |
| 14日 | ツアー・オブ・タイランド日本代表出発 | 於：タイ(帰国→24日) |
| 14日 | 第2回未登録者レース検討委員会 | 於：東京・日本自転車会館3号館3階 |

< JCF オフィシャル・スポンサー >

PEARLIZUMI

ANCHOR
www.anchor-bikes.com

AEON

OGK KABUTO

LA PISTA
ラピスタ新橋

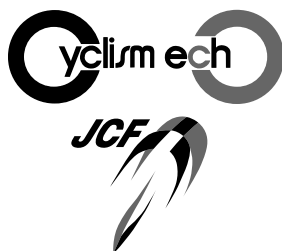
< JCF オフィシャル・サプライヤー >

JNL

Vittoria
the choice

MEDALIST CLUB

MAVIC



シクリスムエコー No.145 2007年12年・2008年1月合併号

発行/財団法人日本自転車競技連盟

発行人/岩楯昭一

編集人/加藤 昭

編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-3 日本自転車会館内

TEL03-3582-3713 FAX03-5561-0508 http://www.jcf.or.jp/